岩手日日新聞
平成２６年５月１３日（火）
※この記事・写真は岩手日日新聞社の許諾を得て転載しています。

大会

われら文化部

高校の部活動もさまざま。野球やサッカー、ラグビーなどメディアで取り上げられる機会が多い運動系で頑張る生徒がいる一方、文化芸術分野で仲間と力を合わせ、あるいは個人として一つの道を究めようと日々励む生徒たちも。本欄では、そんな文化系の高校生の頑張りを紹介します。

花北青雲高ＯＡ部

ひたすら文章入力
1000文字超えも余裕

放課後のコンピュータ実習室。パソコンに向かって、集中してキーを打つ音だけが響く。花巻市石鳥谷町の花北青雲高校ＯＡ部（田鎖希部長）は、新入りの1年生を加えて部員37人。県高校ワープロ競技大会を24日に控え、文字通り練習に打ち込んでいる。

1年生の時から使い続けているという基礎練習のプリント用紙。「ｊｆｊｆ…」「ｋｑｋｑ…」とローマ字を繰り返した後に「あいうえお」の入力。濁音、半濁音、拗音、短文と続けて指ならしのアップが完了。各自文章練習をして、競技を想定した10分間計測を3セットこなす。

最初の頃は300字程度の入力数だったのが、2年生になると1000字を超え、3年生では誤字、脱字もほとんどなく1300～1400字まで伸びてくるのが面白さ。調子がいい時には1600字に達するという副部長の高橋真穂さん（3年）は「打っている時は無心。キーボードを見ずに打てるようになり、数字にも出るので達成感がある」と話す。

文章入力では科学、環境など幅広い分野の知識が求められることから、日ごろから新聞を読むなどして時事ネタを把握。2012年は団体で、13年は個人で全国大会に出場する活躍を見せた先輩たちを追い、県大会では3位入賞を目標に個々のレベルアップを図っている。

夏休み以降は、ビジネス文書実務検定に向けた準備も始まる。将来の仕事にも役立つ内容で、卒業までには1級を取得する。顧問の作山由香里教諭は「パソコンが好きで、自分から進んで取り組んでいる。基礎ができれば伸びてくるので、1年生にも頑張ってほしい」と期待する。

黙々と練習する中で、長期休みに取り入れているのが部内でのチーム対抗戦。学年の垣根を取り払い楽しみながら腕を競っており、田鎖部長（3年）は「これからもお互いに高め合っていけるよう、みんなで頑張りたい」と意欲を見せる。

花北青雲高ＯＡ部の部員たち。日々、文章入力練習に励んでいる